

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(中学校用)

(1) 学校教育目標	真理と学問を尊重し、心身ともに健康で、国際社会の進展に寄与すべき、積極有為な人材を育成する。 本目標を達成するため、能力と個性に応じた教育活動を通して、次の諸項の実現に力点を置く。 ア 知性の深化 イ 徳性の涵養 ウ 個性の確立 エ 自律心の養成 オ 心身の鍛練
(2) 現状と課題	現状：県内唯一の県立中高一貫校として、中高一貫校ならではの特色ある教育活動の実践を継続している。 課題：生徒指導上の問題（不登校、ＳＮＳに関わる問題等）への対応や、教育課程編成に伴い、中高ともに人員・時間・場所（教室）等の物理的な課題に苦慮している。
(3) 重点目標	1 併設型中高一貫教育校の特色を活かす系統的な教育活動の展開 2 良質な授業の展開と生徒の適性に応じた進路実現 3 多様な生徒への対応 4 理数教育及び語学教育の充実と探究型学習の推進 5 快適な職場環境の醸成
(4) 結果の公表	三本木高等学校と同様に、各学年の「学年だより」や「学年懇談会」で説明している。 またホームページにおいても広く公開している。

学 校 名	青森県立三本木高等学校附属中学校
自己評価実施日	令和7年2月14日(金)
学校関係者評価実施日	令和7年2月20日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
地域の多彩な有識者で構成される学校評議員会を学校関係者評価委員会として位置付けている。 学校評議員 5名 (地域企業代表 1名、大学関係者 1名、保護者代表 1名、後援会代表 1名、学校協力者 1名)

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①高校と附属中学校間、学年や分掌及び教科間の連携と協力の強化 ②中高6年間を見通した教育計画及び教育活動の充実・発展	①中高教員の授業への相互乗り入れを継続する。 ①中高での部活動の連携、中体連終了後の高校部活動への円滑な移行を行う。 ①中高合同行事（心に関する講演会、芸術教室、進路講演会等）を実施する。 ②先取り学習（数学・英語）と中高6年間を見通した教育課程を実施する。 ②修学旅行での大学見学（中学2年）を実施する。 ②ホームページの活用や学校説明会、授業公開等による地域への広報活動を行う。	①中高教員の授業への相互乗り入れを継続できた。 ①部活動の連携を深め、中体連終了後に円滑に高校の部活動に移行できるように継続して取り組むことができた。 ①中高合同行事は、ほぼ予定通り実施できたが、今後は、内容の見直しや、細かい日程調整が必要である。 ②附属中学校での先取り学習や少人数指導（数学・英語）等、中高6年間を見通した教育課程を継続して実施できた。 ②修学旅行において、早稲田大学への大学見学を実施することができた。 ②職員による小学校訪問を実施し、生徒情報や附属中の教育活動についての情報提供を行うとともに、本校ＨＰ（月2回程度）に、定期的に情報を公開し、広報活動に努めた。	A	・部活動や対外的な活動の好成績から、文武両道が当たり前になりつつあって素晴らしいと思う。 ・学校評価で、生徒の「附属中が好きですか」の項目について、他の項目よりも低いように思われる。潜在意識として不安要素があるかもしれない。 ・高校の定員割れが、生徒間の学力差拡大や学習意欲の低下につながるものが懸念される。中学校入試時期（小学校時）から本校の広報活動に努めてほしい。	中高一貫校としての教育活動を実践している一方で、中高一貫校としての特色ある取組については課題が残る。次年度も、中高一貫教育課程委員会を核として、学期ごとの見直し・改善を図りながら、中高6年間の教育活動を推進するとともに、より効果的な内容や方法を工夫した魅力ある教育実践を計画する。
2	①「授業第一主義」と家庭学習を促進する指導の工夫改善 ②ＩＣＴを活用した授業改善を通して新しい時代に求められる資質能力の育成	①②深い学びを実現する学習指導の在り方の研究（学びをつなげる学習活動）に取り組む。 ①諸学力テストを活用する。	①②「深い学びを実現する学習指導（学びをつなげる学習指導）」を全教職員で意識し日々の授業実践を積み重ねた。 ①校内研修では、県教委訪問で全教員が指導主事からの助言を受けたほか、国語科においては研究授業を行い、外部から招いた助言者からの指導を受けた。 ①定期テスト前に、基礎基本の確認を目的にした学習会を希望者に対し実施したが、設定日に課題が残る。 ①諸学力テストを計画的に実施できたが、結果・振り返りに課題が残る。 全国学力・学習状況調査（文部科学省）3年生、学力推移調査（ベネッセ）全学年、駿台中学生テスト（駿台 全国版）3学年希望者、学力診断問題（正進社 県版）全学年	B	・高校1、2年生を中心に、家庭学習時間の減少が心配される。家庭での情報端末の利用時間が増加していないのか、確認する必要がある。 ・学力向上のため、日々の授業実践を大切にし、指導方法の更なる工夫を目指してほしい。 ・ＩＣＴを活用した授業改善について、今やどの職場でもＩＣＴを活用し、業務の効率化が図られている。学校でも積極的にＩＣＴを活用し、授業の効率化や改善を図ってほしい。このことが、教職員の負担軽減につながると思う。	・「授業第一主義」を掲げ、ＩＣＴを活用した実践をはじめ、今後も教師の授業力向上に努め、学力向上につなげていく。
3	①きめ細かな生徒指導の実践 ②特別な配慮が必要な生徒への教育相談委員会等による支援体制の活用	①基本的な生活習慣を確立するとともに、生徒指導の機能を生かした自己指導能力を育成する。 ①生徒の自治的な取組（委員会活動、体育祭・三高祭等の行事、縦割り清掃等）による生徒会活動の活性化に取り組む。 ②ＳＣの助言による定期的な教育相談委員会（年6回）の開催する。 ②学校生活アンケート（年5回）、アセス【学校環境適応感尺度】（年3回）を実施するとともに、高校進学後の生徒指導に活用するため、高校との情報共有を大切にする。	①高校の求める生徒像を確認した上で、中学校段階での目指す生徒像を確認し指導にあたった。 ①不注意による遅刻や、自分から進んで挨拶ができない、忘れ物等、基本的な生活習慣が身についていない生徒が増加傾向にあり、生徒指導部を中心に、組織的な指導にあたった。 ②生活向上に向けた様々な活動を、生徒会（各委員会）が工夫して実施するとともに、教師主導の取組とあわせて行うことで日常的な生徒指導の充実に努めた。 ②定期的に教育相談委員会（年6回）、学校生活アンケート（年5回）、アセス【学校環境適応感尺度】（年3回）を実施し、学級担任等が一人で抱え込まないように、組織的に対応した。	B	・現状の不登校数について、一概に「増加した」「減少した」とは言いにくい。不登校の理由は多種多様であり対応が難しいが、不登校対策に引き続き取り組んでほしい。	・基本的な生活習慣を確立し、落ちついた授業・学校の環境維持に努める。 ・各行事については、より教育効果を高めるため、細部にわたる改善を、今後も積み重ねていく必要がある。 ・これまで以上に教育相談体制の構築に努めるとともに、子供たちに寄り添った丁寧な対応を組織的に実践したい。
4	①普通コース及びＧＳコースそれぞれの特色を生かした探究型学習の充実と発展 ②外部専門機関等と連携した理数教育及び語学教育の一層の充実	①森林環境学習、中高合同による拡大校内授業研究、高校教諭による中3での先取り学習（英数）、標準授業時数を超えた授業時間数の確保、総合的な学習の時間では高校教員による探究的な学習、中高協働探究セミナー、ＧＳＣ発表会（高校）等への参加を行う。 ②語学研修を実施する。 ②各種検定を実施する。（英語検定・数学検定・漢字検定）	①森林環境学習はもちろん、ＧＳＣ事務局と協力しながら、数学・英語での先取り学習、高校教員による探究的な学習（総合的な学習の時間）、中高協働探究セミナー、グローバルサイエンスコースの課題研究発表会への参加などを行った。 ②語学研修を実施した。 ・オンライン海外研修（希望者での実施） 英会話学習、バーチャルスタディツアー、国際交流 ・修学旅行での語学研修（TOKYO GLOBAL GATEWAYでの研修） ③英語検定では、今年度も、2級、準2級合格者を多数出すことができたが、数学検定や漢字検定の受験者が少ないことが課題である。	A	・ＧＳＣの取組は素晴らしい、受験向けではないかもしれないが、今後も探究活動を推進してほしい。自分自身が何に没頭できるのか知るきっかけにもなる。そのため、将来の目標設定もしやすく、目標がある子は強いと思う。 ・進路情報も含め、ＧＳＣの活動について、保護者や地域に対し、これまで以上に情報発信してほしい。	ＧＳＣ事務局を核として、より一層中高が連携した教育活動を実施する必要があるとともに、外部への情報発信に努めたい。 また、今後も語学研修や各種検定取得を積極的に支援したい。
5	①教職公務員としての服務規律の確保 ②多忙化解消によるワークライフバランス確保	①相談しやすく、働きやすい職場環境への改善 ②会議の精選と資料の電子化に取り組む。 ②部活動の地域移行及び統廃合の検討を継続する。	①些細なことで職員同士で情報を共有し、組織的に対応した。 ①職員朝会や職員会議等で、管理職から情報を提供したり、常日頃、タイムリーな注意喚起を行うことにより、服務規律の確保の徹底について意識づけを行っている。 ②業務の効率化を図り、年次休暇が取得しやすい環境を整備した。 ②今後も段階的に部活動の地域移行を行っていくとともに、部活動の精選についても継続して取り組む。	B	・教職員の方々がまず心身ともに健康であってほしい。主任の先生方に仕事が偏っていないか心配である。副主任の先生をもっと活用してもよいのではないかと。 ・世代別で仕事に対する考え方の違いが拡大しているように思う。教職員間で相談しやすい環境づくりが大切。 ・教師側の負担もあるが、部活動は先輩後輩の人間関係を学ぶ貴重な場となるので、今後の在り方を継続して検討してほしい。	・踏襲型の業務を見直し、ワークライフバランスを確保しながら、教育活動にあたっていく必要がある。 ・服務規律については、引き続き教職員の不祥事が生じるたびに、職員会議等で注意喚起を行うとともに、校内研修などでも扱い、職員の意識の高揚を図る。 ・部活動については、生徒の不利益につながらないよう、今後も県教育委員会の指導助言を頂きながら、地域移行と部活動数の見直しを継続的に推進する。

(11) 総括	県内唯一の県立中高一貫校として、中高一貫校ならではの特色ある教育活動の実践を継続してきた。今後も、これまで以上に高校との連携を密にし、本校の目指す生徒像に鑑みながら、適宜見直しを図ることで、積極的な教育活動を展開する。また、校是にもある「規律ある進学校」の土台となる生徒指導を充実させるとともに、「授業第一主義」と家庭学習を促進する指導の工夫改善に努める。
---------	--